

お知らせ

臨床検査専門医は日本専門医機構が認定する基本診療領域の専門医です。新しい研修が2017年4月から始まることを受け、日本臨床検査医学会ではこの分野に興味をお持ちの方に臨床検査専門医をより知っていただくためのコーナーを開設しました。

まず、この専門医のことを簡単にわかっていただくための「臨床検査専門医についてのQ&A: 学生、初期臨床研修中の方へ」と「臨床検査専門医についてのQ&A: 医師として活躍されている方へ」をご覧ください。

研修カリキュラムなどの詳しい情報は、このホームページの別コーナーにある「新臨床検査専門医制度について」もご参照ください。なお、実際の募集の情報は2016年6月以降に臨床検査専門研修基幹施設ならびに日本専門医機構のホームページに掲載される見込みです。本ホームページでも重要な情報は掲載していく予定です。ご質問、ご相談は、学会事務局にお願い致します。

臨床検査専門医についてのQ&A: 学生、初期臨床研修中の方へ

臨床検査専門医って？

臨床検査医学という学問分野があります。これは、基礎医学と臨床医学を結ぶ掛け橋となる総合的な学問です。

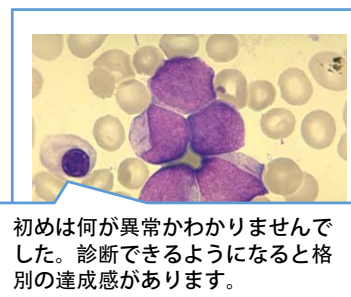
臨床検査専門医とは、臨床検査医学を修め臨床検査を通して診断や治療に役立つ検査結果と関連する情報を臨床医に提供し、検査結果の信頼性を維持するために臨床検査全体を管理する医師のことです。具体的には、診断コメントを作成したり、臨床医からのコンサルトに対応します。また、臨床検査の精度、品質管理の責任を担う医師です。専門性・独立性の高さから、日本専門医機構は臨床検査専門医を基本19領域の専門医の一つとして認定しています。

どんな勉強をするのですか？

一般検査（尿など）、生化学検査、血液学検査、微生物検査、免疫学的検査、輸血検査、遺伝子検査、生理機能検査などの各論的なこと、臨床検査の特性や検査室管理などの総論的なことを学びます。

教科書や資料、講義により知識を学び、検査室において熟練した臨床検査技師のもとで検査技術を理解し、指導医のもとで検査の評価などを研修します。血液学検査を例にあげるなら、血液学の基礎、血液学検査の技術論を学び、末梢血・骨髓塗沫標本の判読を研修し、血液疾患の診断コメントが書けるレベルを目指します。3年間の研修後には臨床検査専門医試験を受験することができます。

専門医取得後は、これらの基盤を維持し、病院検査室の管理に携わりながら、自分の専門分野をさらに深く追求していきます。



どこで研修するのですか？

2017年の研修開始にむけて2016年度中には基幹研修病院が公開されます。多くは大学附属病院またはそれに匹敵する規模の病院です。臨床検査領域では約80の基幹施設が認定される見込みです。参考までに、現在の日本臨床検査医学会による専門医制度が認定する認定研修施設（2015年6月現在 全国129施設）

<http://www.jslm.org/recognition/center/index.html> をご覧ください。

研修中に臨床はできますか？

初期研修医を修了して臨床検査プログラムに入りますと、当然臨床検査の研修が主になりますので、例えばベッドを受け持って多くの時間をそのために使うような形は困難と思われます。実際には、多くの後期研修医や専門医は、関連施設で外勤として外来診療や病棟診療を行っていますので、そのような形で臨床と関わっていただくのが現実的かもしれません。

🧪 研修中に研究はできますか？

できます。研究は大いに推奨しています。臨床検査医学は学際的な側面も強く、また研究がやりやすい環境にあります。研修中でも短期間であれば研究センターの生活を送ることも可能です。短期間であれば基礎医学などの研究室で学ぶことも可能です。

🧪 専門医の毎日はどうなものですか？

いくつか勤務先や勤務形態の状況別に例をあげて説明します。

Case 1: 大学病院常勤医

- 主な仕事：①診療業務(検査判読、コンサルテーション、検査部管理)
②教育(学生・研修医・検査技師指導)
③研究



	月	火	水	木	金	土
午前	骨髓像判読	学生実習	内科外来 (外勤)	免疫電気泳動 演習	内科外来 (外勤)	骨髓像判読 研究
午後	内科外来 (外勤)	骨髓像判読 研究	検査部管理 業務(会議※)	骨髓像判読 検査部管理業務 (会議※)	研究	

- ・その他、他科からの検査についてのコンサルテーション(適宜)、リサーチミーティング(月1回)
- ・※会議 (検査部全体業務会議、遺伝子検査業務会議、血液検査業務会議、生化学検査業務会議など)

Case 2: 一般病院常勤医

	月	火	水	木	金
午前	内科外来 (外勤)	非常勤講師として出身大学で学生実習	感染症外来 (院内)	検査報告書チェック	検査センター指導 (外勤)
午後	検査報告書 チェック	骨髓像判読	ICT ラウンド 院内感染対策 会議	研究	検査部管理業務 (会議など)

Case 3: 子育て中の女性医師（大学病院非常勤医）

	月	火	水	木	金
9:30～ 15:00	—	内科外来 (月1～2回 午前のみ：外勤)	免疫電気泳動判定 (大手検査会社委託)	骨髄像判読	学生実習 骨髄像判読

- ・この他には適宜、研修中の医師の指導など時間調整のきく仕事を行う。
- ・検査判定・判読はある程度時間の融通が利くため、子供の学校行事などで都合が悪い時は夜子供が寝てから行うこともある。

この他にも、**日本臨床検査専門医会では何人かの臨床検査専門医の日常を紹介しています。**こちらのサイトをご覧ください。

<http://www.jaclap.org/general/senmoni.html>



女性医師に向いていますか？

向いています。臨床検査は範囲が広く深い知識と経験が必要な分野です。しかし、ベッドを持たないなど検査関連以外の duty が少ないという点は他の分野と大きく異なります。基本的に臨床検査医としての当直はありません。

自分のペースでできる仕事が多く、働き方によっては時間が調整しやすい分野です。2014年4月現在、臨床検査専門医数 609 名（男性医師 535 名、女性 75 名）で女性医師率は 12.2% です。この中で家庭を持つ女性も多く、そのほとんどが子育て・介護と両立しながらそれぞれのペースで仕事を継続しています。

育児・介護などによる一時的な休職はあっても、常勤・非常勤での復職率は高く、専門性を持ちながらそれぞれの時期に合った働き方を選ぶことができます。ライフワークバランスを考える女性医師にも非常に適していると言えます。

育児中でも専門医取得とそのための研修は可能ですか？

可能です。実際多くの女性医師が育児をしながら後期研修を行い、臨床検査専門医を取得しています。1週間のうちの勤務(研修)日数や勤務(研修)時間などについては、各施設で相談しながら研修を行います。

臨床検査医の病院内での位置づけは？

臨床検査医は、臨床検査室の管理、超音波検査などの診断業務、診療科からのコンサルテーションに対応するなど、病院診療に貢献しています。また、保険診療においては検体検査管理加算という制度があり、検体検査の品質を管理している常勤の医師がいますと相当の加算を獲得し、経営面においても貢献しています。



臨床検査専門医として、検査部を有する大学病院や総合病院の他にはどのような働き口がありますか？

例えば大手の検査センターと契約して、全般的な指導や特定の検査の判定業務を行ったり、健診業務を担うなどの仕事があります。臨床検査専門医は全国的に不足しており、働き口に困ることはありません。

専門医取得後はどのような方向性がありますか？

臨床検査専門医の資格を保持するという前提で話を進めます。保持するということは5年毎の更新の要件を満たすことです。臨床検査専門医の更新には他の基本領域専門医同様、診療実績、講習会出席が課せられています。

まず他の関連した専門医資格を取ることにについてです。例えば内科専門医の2階に循環器専門医があるようなサブスペシャリティについてですが、臨床検査の2階としての候補は、超音波、臨床遺伝、人間ドックなどが想定されます。これらが2階の専門医として認められれば、臨床検査全般の専門医として活躍しながらより専門性の高い活動が可能です。

次に、他の基本領域の専門医を取得できるかです。専門医機構は、19領域のどれか一つの専門医となることを原則としていますが、2つ以上の基本領域の専門医資格を取ることを否定はしていません。否定はしていませんが「現実的には難しいだろう」というスタンスです。それはおそらく一つの専門医の更新要件をクリアしながら、他を研修したり、維持したりするのは困難という想定のためと思われます。全体的な状況はそのようなものですが、臨床検査専門医の更新は通常の検査医業務を行っていれば比較的ハードルが低いため、物理的には他の専門医を持てる可能性があります。つまり、ご本人の努力によっては臨床検査の専門医でありながら、病理専門医でもあるということが不可能ではありません。

専門医資格を保持しつつ、一見臨床検査と関係がなさそうなことを主たる仕事にできるかですが、例えば一般病院の診療科勤務医になっても検査室に関わることで更新要件のう

ち診療実績クリアできると思われます。開業医の場合は、非常勤で病院検査室に関わるか、検査センターと契約して診断業務を行うことで同じくクリアできるかもしれません。

学際的意識の高い方は、研究実績をあげ、学生教育に貢献し、是非とも大学医学部の検査関連講座の教授、准教授を目指してください。専門医資格があり、医学者としての研究業績などが相応であれば大学教員としての将来は明るいはずです。

臨床検査専門医についての Q&A: 医師として活躍されている方へ

Q1 「臨床検査医」って?

検査室を管理するとともに、検査にかかわる診断業務を行う医師です。検査技師の方々と協力して、検査を適切に実施し、正確・精確なデータを返却できるよう、努力しています。日常診療では、「正確なデータが返ってくるのは当たり前」と思われているかもしれませんが、それは検査部医師・技師の日々の努力の賜物なのです。

Q2 「臨床検査専門医」って、どんな資格ですか?

広範囲にわたる臨床検査について理解した、臨床検査のエキスパートです。

Q3 「臨床検査専門医」には、どんなメリットがありますか?

検査室の管理・運営において必須の資格ではありませんが、臨床検査専門医の資格をもつ医師は、検査室を管理する上で、十分な能力があるとみなされます。検査室を管理する常勤の医師がいる場合、「検体検査管理加算」を算定できるため、検査室専任医師のニーズはかなりあります。臨床検査専門医を取得することで、アピールにつながります。

Q4 どんな勉強をしたら、臨床検査専門医になれますか?

臨床検査には、臨床血液学、生化学、免疫、輸血、微生物、超音波検査などの生理機能検査など、様々な分野があります。臨床検査専門医になるためには、各分野について理解するだけでなく、検査室の管理など、総論的なことも学ぶ必要があります。指導医や熟練した臨床検査技師のもとで研修



し、学習します。規模の小さい施設では、その施設のみですべての分野を網羅するのは難しいかもしれませんが、他の施設に協力していただいて一通り研修することが可能です。

なお、専門医機構が普及を目指す専門医制度は、初期臨床研修修了後の医師が3年間専門研修することを基本としており、当領域でも基本的にはそれに沿ったプログラムを用意しております。しかしながら、当領域には他科で活躍されている医師の参入の可能性が高いことから、そのような方には毎日の研修を3年間ではなく、1～2日の研修を6年間などのオプションを相談の上、準備することは可能です。詳しくは学会に相談ください。

Q5 どこで研修できますか？

現時点では、129の認定研修施設があります。

<http://www.jslm.org/recognition/center/index.html>

新しい専門医制度のもとでは、約80の基幹研修施設が認定される見込みです。

Q6 研修中も、臨床はできますか？

ある程度は可能だと思います。検査室では臨床検査の研修が主となりますが、多くの医師は関連部署や関連病院で、週1～2回程度の外来診療を行っています。診療科のカンファレンスに参加している場合も多いです。

Q7 研修中も、研究できますか？

研究も可能です。施設によって、研究内容や環境は異なります。

大学病院の場合、多くの医師は検査業務と並行して、様々な研究を行っています。検査部は横断的な部署であり、検体や検査データを用いた臨床研究に取り組みやすい環境にあります。研究室によっては、より基礎的な研究も可能です。

Q8 専門医になったら、どんな毎日になりますか？

大学病院の場合、多くの医師は診療・研究・教育を並行して行っています。内科系サブスペシャリティをもち、臨床検査専門医となった場合は、内科系診療科の外来を担当している場合も多いと思われます。

病棟業務や当直がないため、時間は比較的自由に使えます。



T 大学病院常勤医師の場合

	月	火	水	木	金
午前	内科外来 (外勤)	内科外来 (外勤)	研究	診療科カンファレンス 参加	研究
午後	骨髄像判読	学生実習 検査部カン ファレンス	骨髄像判読	内科系専門外来	骨髄像判読

●主な業務

- 1) 検査業務：血液検査室、遺伝子検査室、免疫検査室の管理を兼任。骨髄像報告書作成およびアドバイスサービスを担当。
- 2) 診療：院内の内科系専門外来を担当。
- 3) 教育：学生教育（実習、講義）、初期研修医向け講義を担当。臨床検査技師の指導も行う。
- 4) 研究：自分の研究テーマに取り組むとともに、検査技師の研究、論文作成の指導も行う。
- 5) その他：検査部カンファレンスに参加。各種委員会の会議にも出席する。

Q9 女性医師に向いていますか？

病棟業務や当直がないため、マイペースに仕事ができます。ワークライフバランスを考えながら、仕事に取り組むことができます。また、育児や介護があっても、そのときに合った勤務形態で働くことも可能です。

Q10 他の専門分野との両立は可能ですか？

少し大変かもしれませんが、他の専門分野との両立は可能だと思います。内科系サブスペシャリティをもち、臨床検査専門医になった場合、臨床経験を維持できるかどうかは、気になるところかもしれませんが、病棟業務はありませんが、外来診療を担当することで、臨床的な能力をある程度維持することができます。検査を主として担当することで、幅広い診療科の医師とやりとりし、今までになかった経験・知識を得ることも可能です。